Ｑ３：目標に準拠した評価の下で、評価の信頼性を高めるための具体的な取組について教えてください。

Ａ：　目標に準拠した評価の下では、評価の信頼性を高めることが一層必要となります。このような認識に立って、各学校においては、評価規準や評価方法等について、実践の成果等を踏まえながら、絶えず見直しを行っていくことが求められています。その具体的な取組として、次のようなことが考えられます。

(1)　教員の共通理解と力量の向上

目標に準拠した評価に当たっては、各学校において、校長のリーダーシップの下、教員間で評価の考え方について共通理解を図り、評価の信頼性を高めていく必要があります。例えば、次のようなことについて共通理解を図ることが大切です。

・評価規準の作成の考え方　　・評価方法の具体化
・評価の総括についての考え方や方法　　など

また、評価の信頼性を高めていくためには、だれが評価してもできるだけ一致する評価に近づけるための工夫や評価する力量を教員一人一人が高める必要があります。そのためには、外部講師を要請し、授業の実際の場面での評価活動をお互いに吟味し合うなど、評価に関する校内研修を質的に充実させることが大切です。

(2)　信頼性のある評価を実現するための評価方法の工夫改善

評価の信頼性が強調され重視されると、ペーパーテストのような数量的な評価を重視する傾向になります。また、授業中に手を挙げた回数で「関心・意欲・態度」を見るといった安易な方法も取られかねません。

そこで、例えば、次のような方法を取り上げ、それらの中から二つの方法をセット化して評価を行うなどの工夫が考えられます。

・教師の観察　　・生徒の作品の分析　　・生徒のノート等の分析
・ペーパーテスト　　・生徒の自己評価や相互評価　　など

このような様々な評価方法を児童生徒の学習活動に即して用いることによって、児童生徒の学習状況を多面的、累積的にとらえることができるようになります。その結果として、評価の信頼性が高まると言えます。

(3)　保護者や児童生徒への学習の評価についての情報の提供

各学校において、学習の評価を通信簿や面談、保護者会などを通じて、保護者や児童生徒に説明し、学習の評価を保護者や児童生徒と共有していくことが大切です。こうした評価についての情報の共有化は、評価の信頼性を高めるとともに、家庭における学習の支援にもつながると考えられます。

さらに、各学校においては、これらの情報の提供のみでなく、「目標に準拠した評価とはどういうものか」「自校ではどのような評価規準や評価方法に基づいて評価を行うのか」といった情報についても、保護者や児童生徒に分かりやすく説明していくことが大切です。

＜参考資料＞

『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』国立教育政策研究所 教育課程研究センター
平成１４年２月